

ふくおかの経済

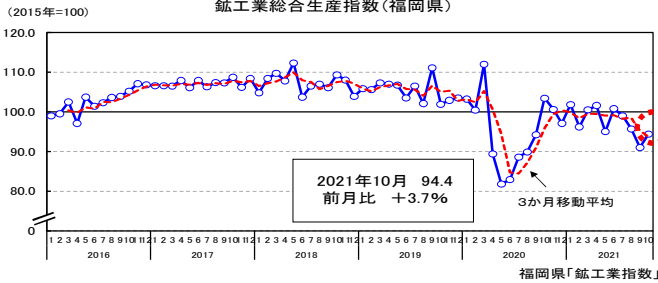
令和3年12月号



生産

持ち直しに足踏みがみられる。

10月の生産指数は、汎用・生産用機械工業などの上昇により4か月ぶりに前月を上回りました。

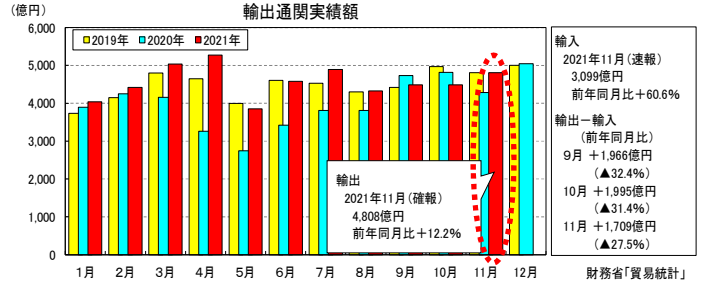


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出は、おおむね横ばいとなっている。
輸入は、このところ持ち直しの動きがみられる。

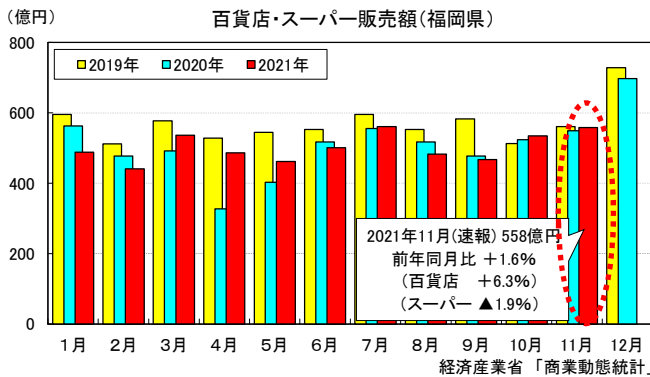
11月の輸出は、前年同月比+12.2%と3か月ぶりに前年を上回りました。



消費

このところ持ち直しの動きがみられる。

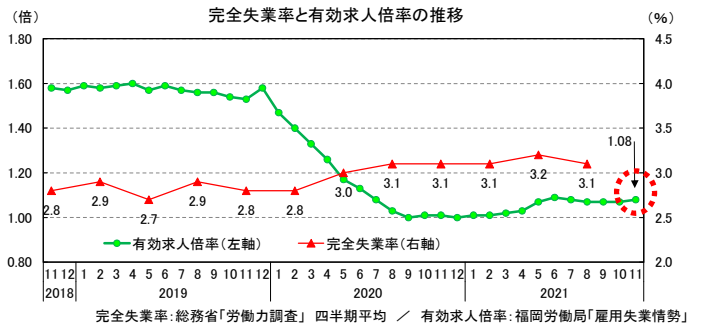
11月の百貨店・スーパー販売額は、前年同月比+1.6%と2か月連続で前年を上回りました。



雇用

求人改善傾向は続いているものの、一部に厳しさが見られる。

11月の有効求人倍率は1.08倍で、前月から0.01ポイント増加しました。

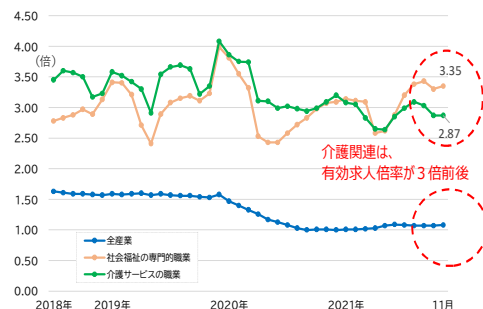


「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。
1.00倍より大きいと、人手不足を表します。

今月のトピック 介護人材不足について ~変わる介護業界~

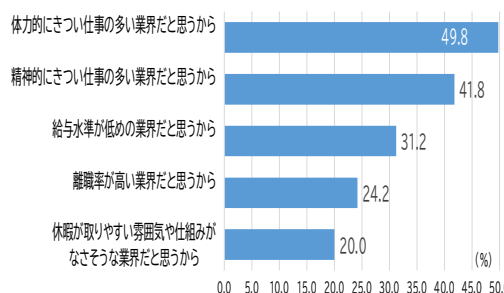
- 高齢化が進展する中、介護人材不足が懸念されています。雇用状況について、有効求人倍率をみると、全産業では1倍前後で推移している一方で、介護関連は約3倍と高い倍率で推移しており、求人に対し求職者が少ない状況となっています(図表1)。
- では、なぜ介護業界は働く場として選ばれにくいのでしょうか。民間調査をみると、介護業界への就業をためらう理由として、体力的・精神的にきつい仕事の多い業界だと思っから、給与水準が低めの業界だと思っから、といった理由が挙げられています(図表2)。
- こうした状況を改善するため、介護職員の処遇改善に向けた取組が進んでいます。賃金面においては、近年、介護報酬の改定が行われてきており、さらに令和4年2月以降の収入を月3%程度引き上げるための予算措置も行われています。また、労働面では、IT・ロボットを活用した現場で働く職員の負担軽減への取組が行われています。
- こうした取り組みもあり、離職率は低下傾向にあり、全産業の平均に近づいています(図表3)。超高齢社会の進展に伴い、より多くの介護職員が必要とされている中、働く場として選ばれるために、官民一体となったさらなる取組みが期待されます。

図表1 職業別有効求人倍率の推移(福岡県 原数値)



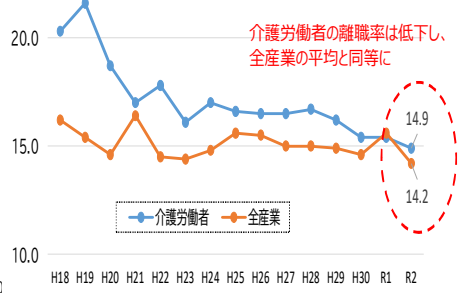
(出所)福岡労働局「雇用失業情勢」一般職業紹介状況より作成
※「全産業」は季節調整値

図表2 介護業界への就業をためらう理由



(出所)株式会社リクルートキャリア「介護職非従事者の意識調査」(2019.7.12)
複数回答のうち、上位5位を抜粋

図表3 離職率の推移



(出所)全産業:厚生労働省「令和2年雇用動向調査」(パートタイム含む常用労働者)
介護労働者: (公財)介護労働安定センター 令和2年度「介護労働実態調査」